

令和元年度 広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査結果概要報告

はじめに

本報告は、令和元年12月～翌令和2年2月にかけて実施した本学の留学生対象のアンケート調査「広島大学留学生の学習と生活に対する支援調査」の結果を集約したものである。

広島大学には2,100人以上の留学生が在籍しており、彼らが直面する生活・修学上の多様な課題を解決すべく、留学生支援ネットワークは定期的に連絡会議を開催し、また各セメスターに一度は全学の留学生支援担当者会議（全学留学生等支援部会）を開催して、情報共有および支援体制の構築に努めている。そこで議論される対象は多岐にわたり、効果的効率的な留学生支援のためには状況把握が重要であるという共通認識のもと、今年度も留学生に対する支援調査を実施することとなった。

本調査の内容および構成は、留学生支援ネットワークのメンバーによって作成され、本学学生向け情報ポータルサイト「もみじ」内「アンケート」機能を用い、全留学生に調査を行った。

令和元年度の留学生支援ネットワークメンバーは以下のとおりである。

ハラスメント相談室
保健管理センター
アクセシビリティセンター
グローバルキャリアデザインセンター
学生生活支援グループ
霞地区運営支援部国際室
留学生担当教員
国際交流グループ

I. アンケートの調査方法と内容

アンケート調査票は広島大学に在籍する全留学生 2,116 名を対象とし、回答数は 440 名であった（回収率は 20%）。

アンケート調査項目は日本語と英語を併記した。

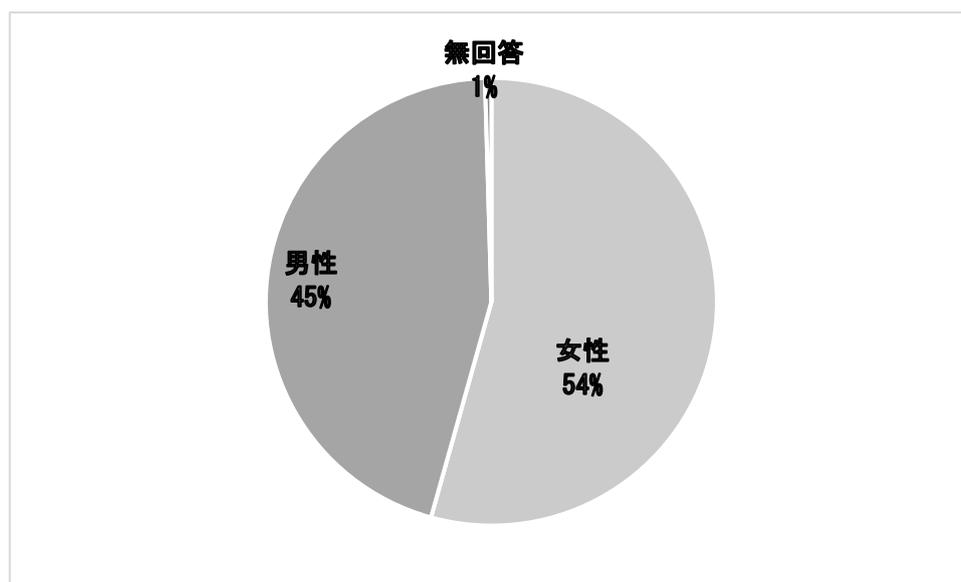
アンケートは昨年とほぼ同じ項目を用いている。内容は 5 つに分かれており、1) 一般的な質問、2) コミュニケーション言語および学習について、3) 広島大学と指導教員について、4) 学生生活支援について、5) 広島大学における学習、生活に関する満足度、6) 自由記述である。

回答者は、質問によって異なっていること、一部の質問に回答していないなどの無回答などもあるために、質問によって全回答者数に違いがある。

II. アンケート調査結果

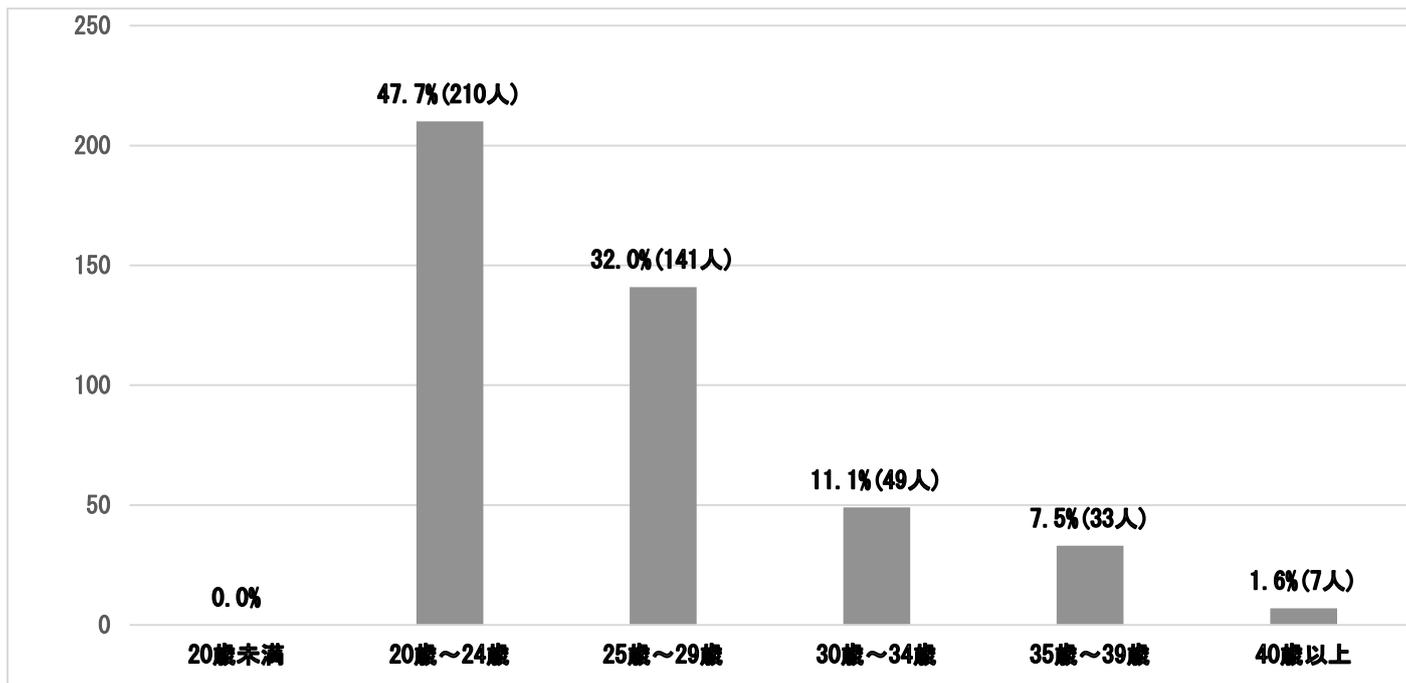
1. 一般的な質問

1.1 性別（有効回答 440）



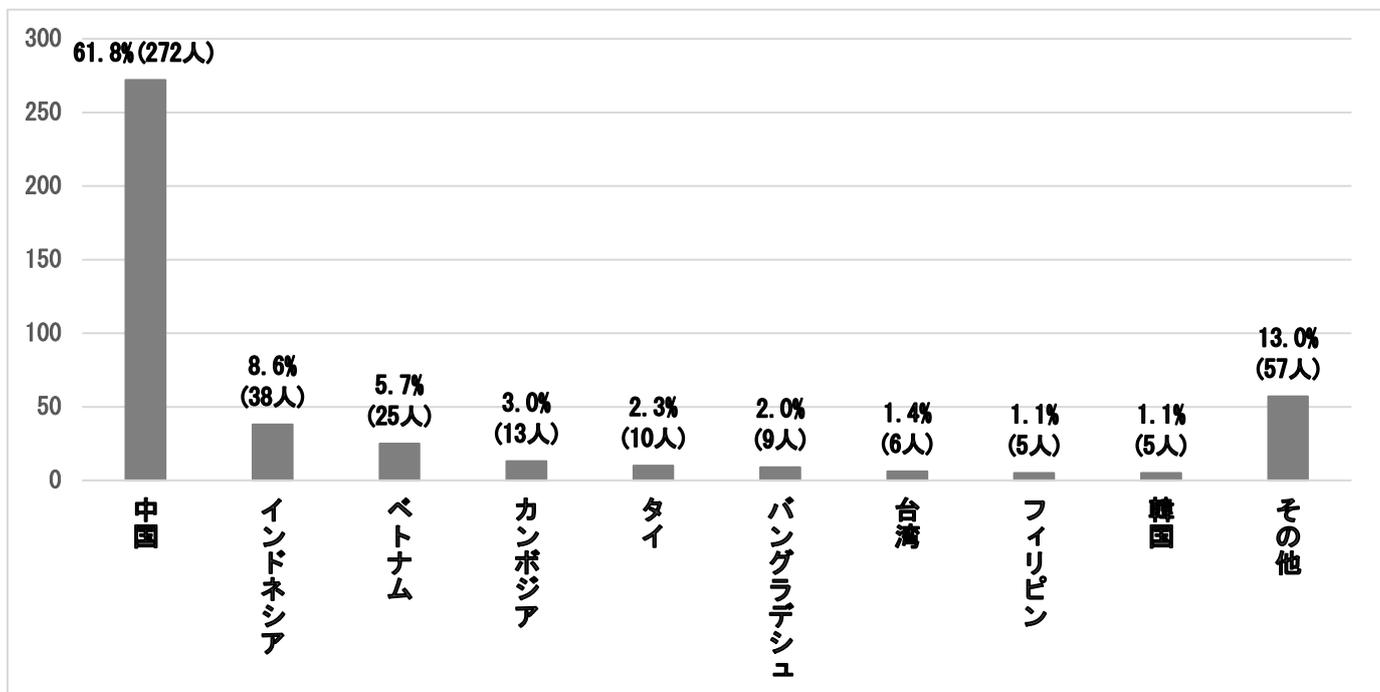
回答者の間で、性別の偏りは見られない。

1.2 年齢（有効回答 440）



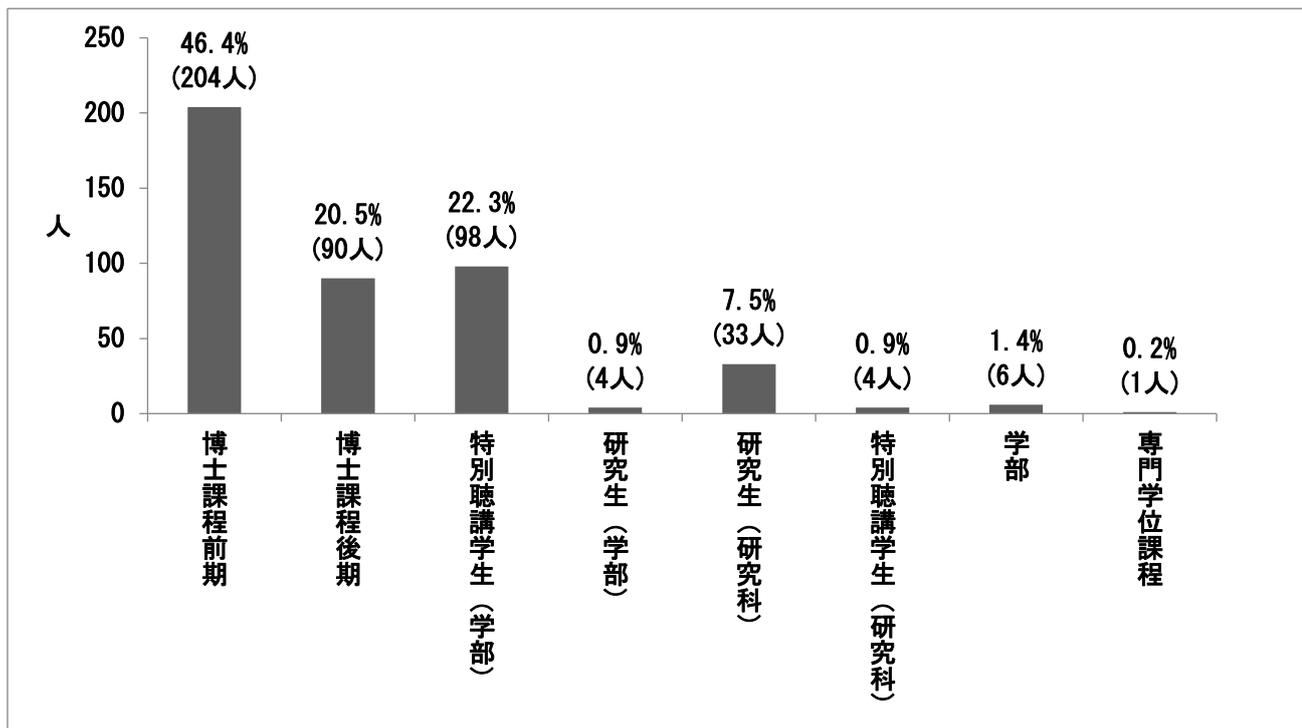
20代が回答者全体のおよそ8割を占める結果となった。

1.3 出身国・地域（有効回答 440）



回答者のおよそ6割が中国出身で、令和元年11月現在の留学生全体の比率とほぼ一致する。その他も、出身者の数に比例して回答が多くなる傾向が見られた。

1.4 学籍（有効回答 440）

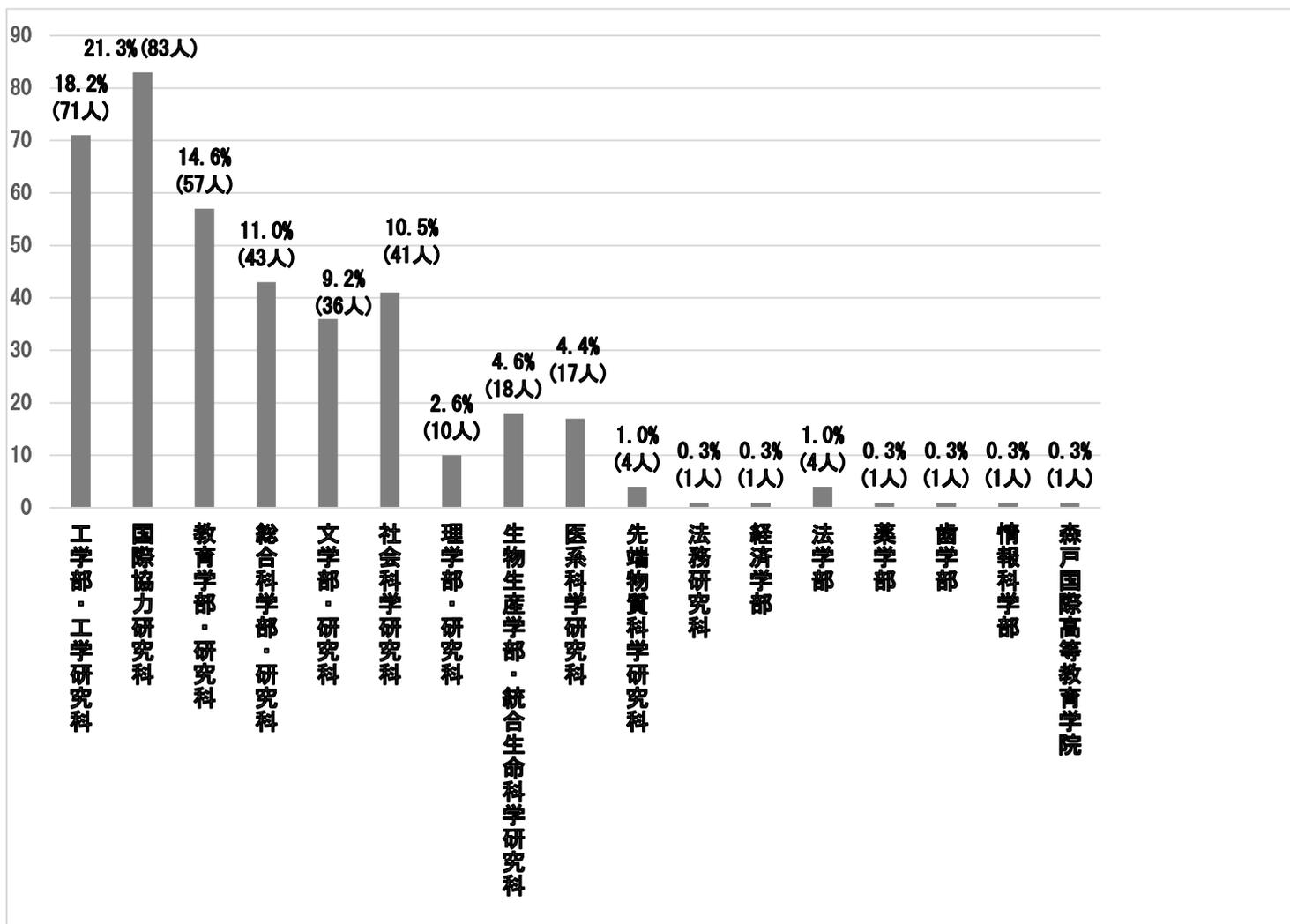


全体の 67% が大学院学生からの回答であった。

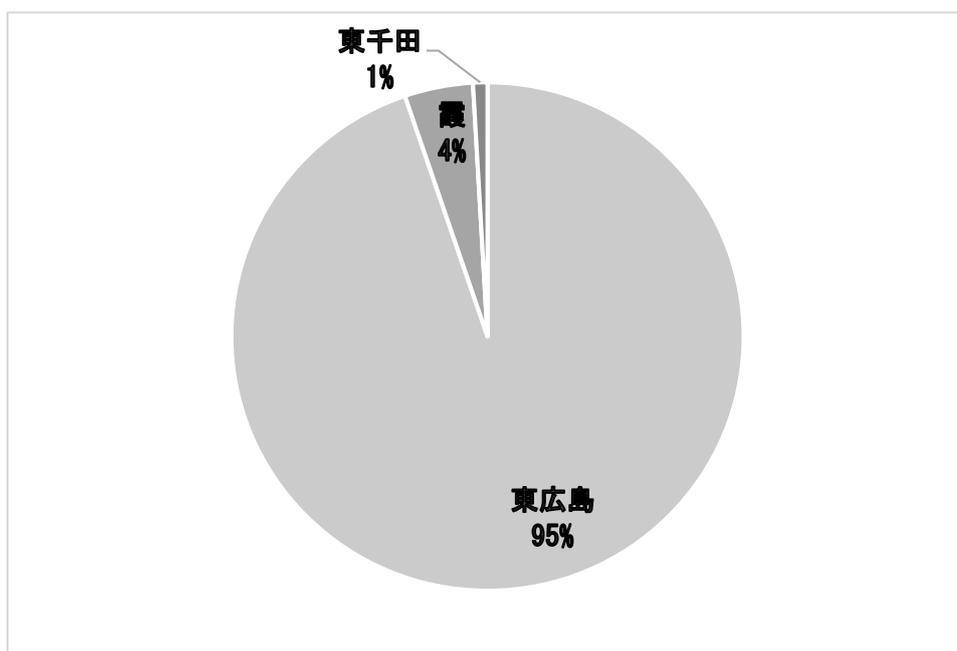
	博士課程前期	博士課程後期	特別聴講学生	外国人研究生	学部生	特別聴講学生(研究科)	専門学位課程	特別研究学生
全体	39.0%	25.8%	12.4%	15.3%	4.1%	1.3%	0.05%	1.2%
回答者	46.4%	20.5%	22.3%	8.4%	1.4%	0.9%	0.2%	0

それぞれの数値を大学の留学生全体に占める割合と比較し、特に外国人研究生・学部生の回答率が低い傾向が見られた。

1.5 所属 (有効回答 390)

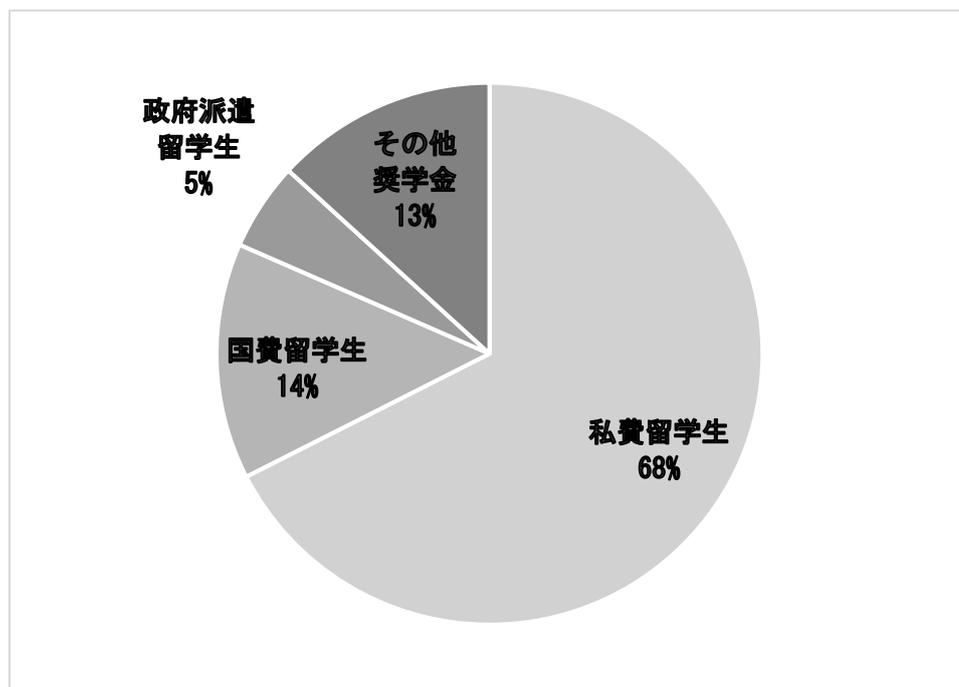


1.6 地区 (有効回答 440)



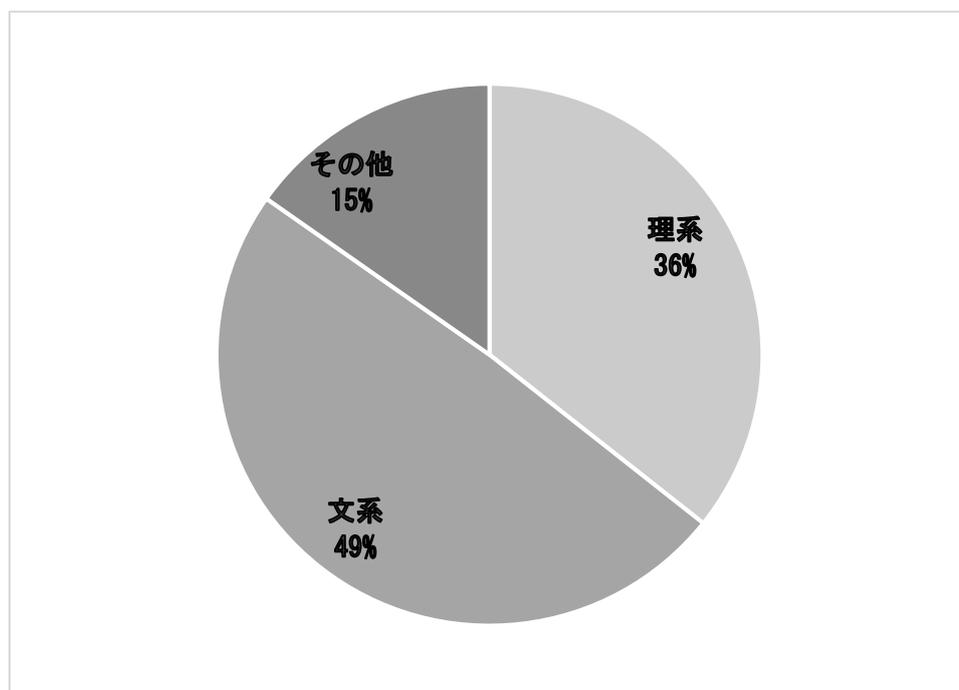
それぞれの数値を大学の留学生全体に占める割合と比較し、特に差異は見られなかった。

1.7 私費・国費（有効回答 440）

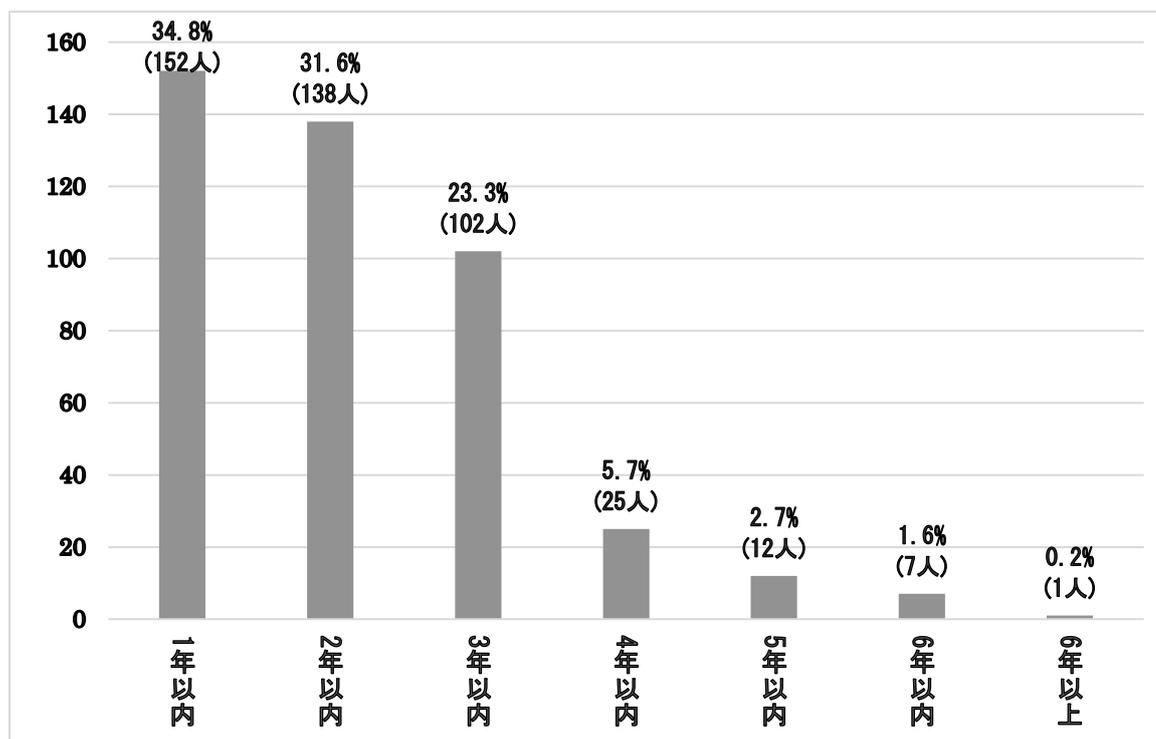


大学全体で私費留学生在が 84% を占めているのに対し、回答者においては国費留学生等、私費以外の留学生の回答割合が相対的に高くなった。

1.8 専門（有効回答 440）



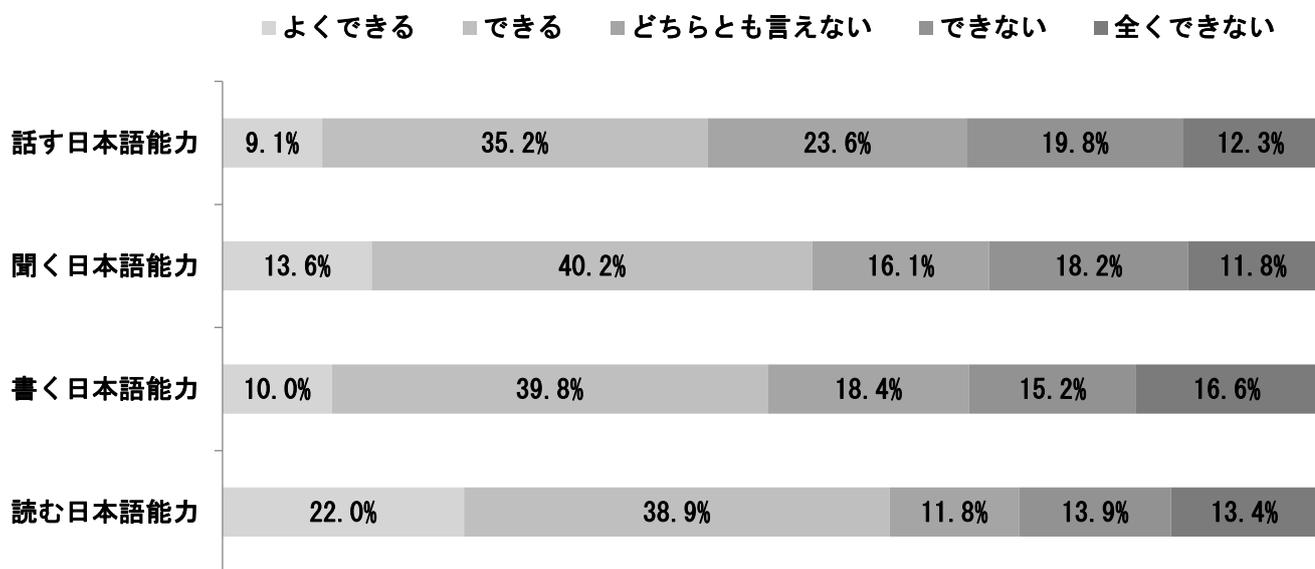
1.9 広島大学での在籍年数（有効回答 437）



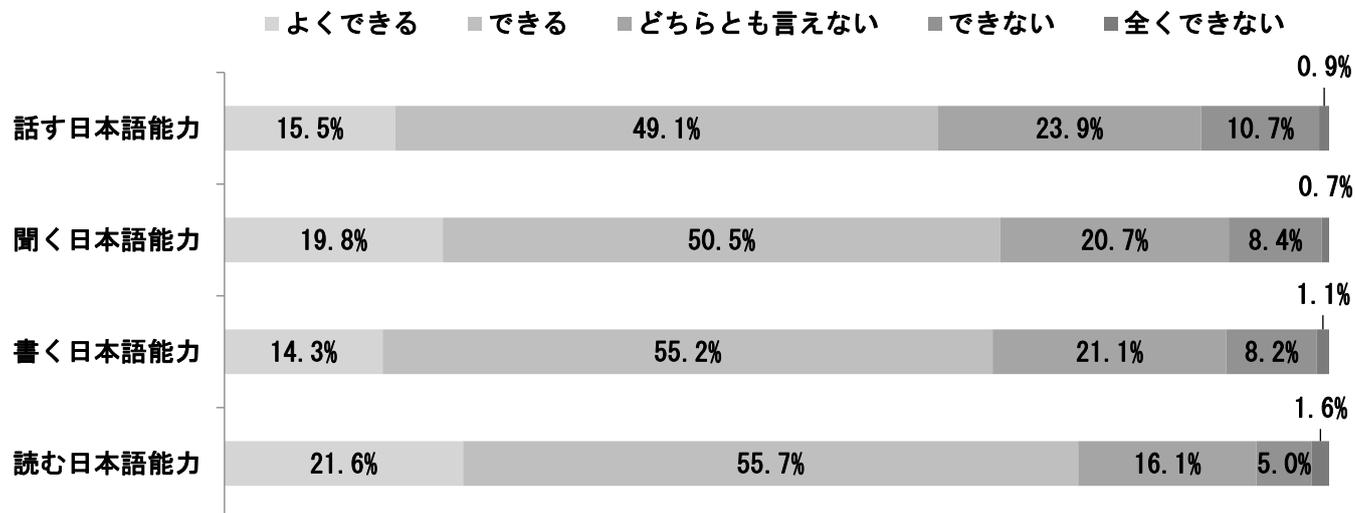
在籍年数が3年以内の回答者が全体の89.7%を占めた。

2. コミュニケーション言語と学習について

2.1 あなたの日本語能力はどのくらいですか？（有効回答 440）



2.2 あなたの英語能力はどのくらいですか？（有効回答 440）



		日本語・英語ともに「よくできる」・「できる」		日本語「よくできる」・「できる」／英語「あまりできない」「全くできない」		日本語「あまりできない」・「全くできない」／英語「よくできる」「できる」		日本語・英語ともに「あまりできない」・「全くできない」		計 n(人)
		n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	
読む	全体	199	60.7	16	4.9	103	31.4	10	3.0	328
	理系	55	44.7	2	1.6	59	48.0	7	5.7	123
	文系	128	83.1	14	9.1	11	7.1	1	0.6	154
書く	全体	137	46.8	31	10.6	122	41.6	3	1.0	293
	理系	37	32.5	4	3.5	72	63.2	1	0.9	114
	文系	93	67.9	26	19.0	17	12.4	1	0.7	137
聞く	全体	147	49.0	28	9.3	118	39.3	7	2.3	300
	理系	48	39.3	2	1.6	71	58.2	1	0.8	122
	文系	86	65.6	26	19.8	14	10.7	5	3.8	131
話す	全体	105	39.8	33	12.5	120	45.5	6	2.3	264
	理系	32	30.5	3	2.9	69	65.7	1	1.0	105
	文系	67	56.8	29	24.6	18	15.3	4	3.4	118

書く能力について、英語は69.5%の学生が「よくできる」「できる」としているが、日本語については49.8%と少なくなる。

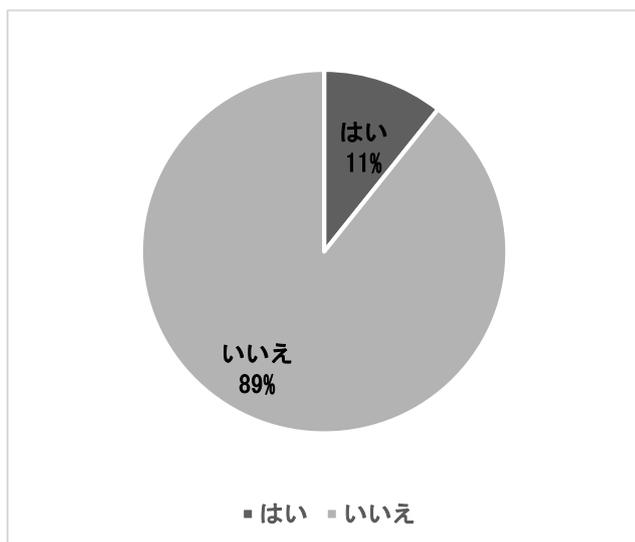
聞く能力について、理系の学生の58.2%が日本語は「あまりできない」「全くできない」が英語は「よくできる」「できる」と回答した。(全体：39.3%)

読む能力について、文系の学生の83.1%が日本語・英語ともに「よくできる」「できる」と回答した。(全体：60.7%)

3. 広島大学と指導教員について

3.1 あなたは留学フェアに参加したことがありますか？（有効回答 440）

【回答者全体】



【学籍別】

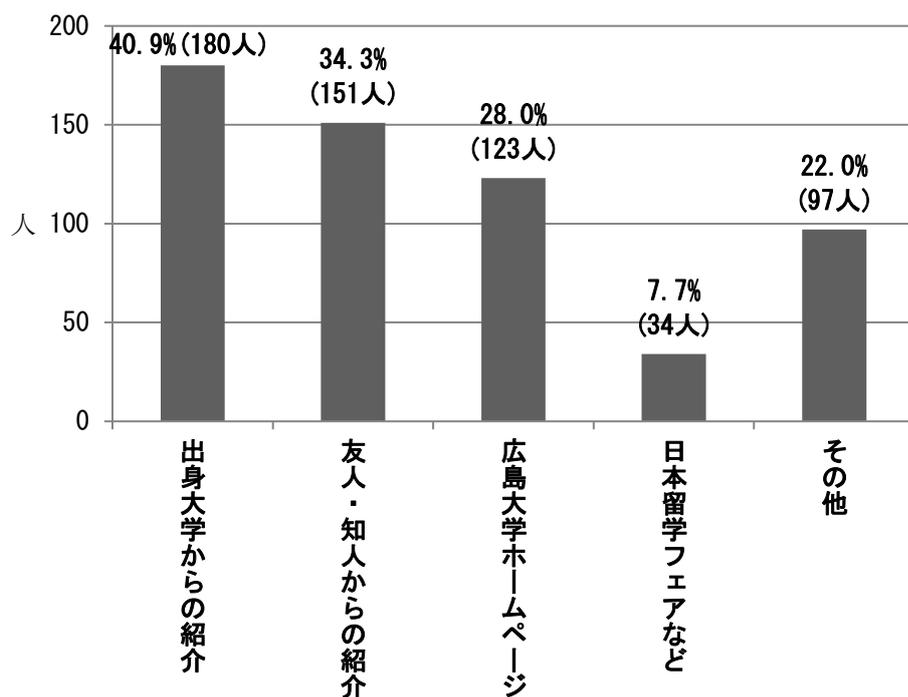
		はい		いいえ		計
		n(人)	%	n(人)	%	n(人)
全体		47	10.7	393	89.3	440
学籍	博士課程前期	9	4.4	195	95.6	204
	博士課程後期	16	17.8	74	82.2	90
	特別聴講学生	16	15.7	86	84.3	102
	研究生	5	13.5	32	86.5	37
	学部生	1	16.7	5	83.3	6

留学フェアは、外国人留学生を獲得するための有力な手段として位置づけられ、本学でも例年複数回出展を行っている。留学フェアへの参加経験を学籍別に比較した際、特に博士課程前期学生の参加経験「あり」の割合が全体と比較して少ない特徴がある。

その他の属性間での比較においては、特に大きな差異は見られなかった。

3.2 あなたは、どんな情報をもとに広島大学を選びましたか？（複数回答可）

【回答者全体】



		広大 HP		出身大学からの紹介		友人・知人からの紹介		日本留学フェアなど		その他		計
		n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)
全体		123	28.0	180	40.9	151	34.3	34	7.7	97	22.0	440
学籍	博士課程前期	68	33.3	51	25.0	71	34.8	17	8.3	51	25.0	204
	博士課程後期	27	30.0	27	30.0	59	65.6	6	6.7	22	24.4	90
	特別聴講学生	6	5.9	90	88.2	9	8.8	8	7.8	11	10.8	102
	研究生	18	48.6	12	32.4	10	27.0	2	5.4	9	24.3	37
	学部生	3	50.0	0	0.0	2	33.3	1	16.7	3	50.0	6
専門	文系	49	22.7	123	56.9	58	26.9	17	7.9	25	11.6	216
	理系	56	35.7	39	24.8	65	41.4	12	7.6	50	31.8	157
	その他	18	26.9	18	26.9	28	41.8	5	7.5	22	32.8	67

【学籍別】

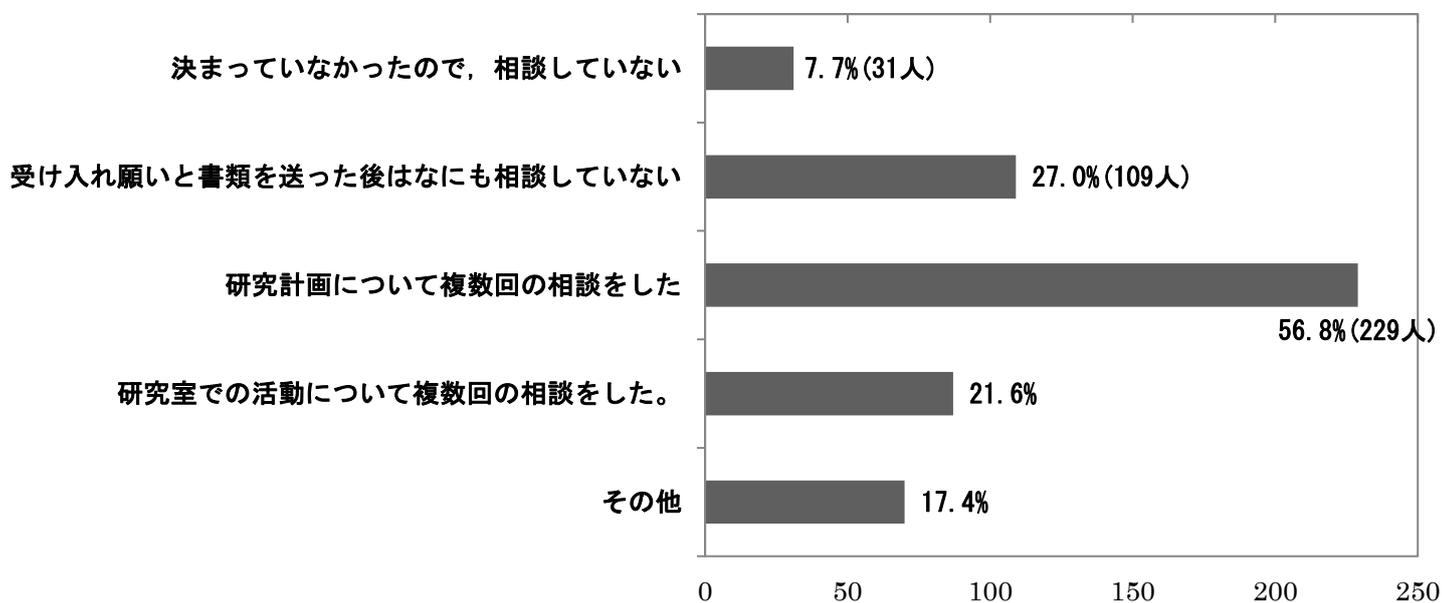
	全体		博前	博後	聴講	研究生	学部生
	n(人)	%	丸数字：回答数順位				
出身大学	180	40.9	③	②	①	②	—
友人・知人	151	34.3	①	①	③	③	③
ホームページ	123	28.0	②	②	⑤	①	①
その他	97	22.0	③	④	②	④	①
留学フェア	34	7.7	⑤	⑤	④	⑤	④

学籍別に比較したところ、大学院生は友人・知人からの情報をもとに広島大学を選んだ傾向が強く、聴講生については受入に大学間協定等の存在が前提となっていることから、出身大学の紹介と回答した割合が最も高くなった。学籍別の差異は見られるものの、出身大学からの紹介、友人・知人からの紹介、ホームページの3項目についてはいずれの学籍においても有力な情報源になっていることが伺える。このことから、ウェブサイト上での積極的な情報公開に加え、将来的に本学を紹介する側になってくれる学生を増やすこと、すなわち留学生活の満足度を高めることが将来的な留学生の獲得に繋がっていくと思われる。

また、専門別に比較したところ、文系学生は出身大学からの紹介をもとに広島大学を選んだ割合が高く、理系学生は友人・知人の紹介やホームページをもとに選んだ傾向が大きいことが判明した。

3.3 あなたは来日前に指導教員とどのような相談をしましたか？（複数回答可）

【回答者全体】

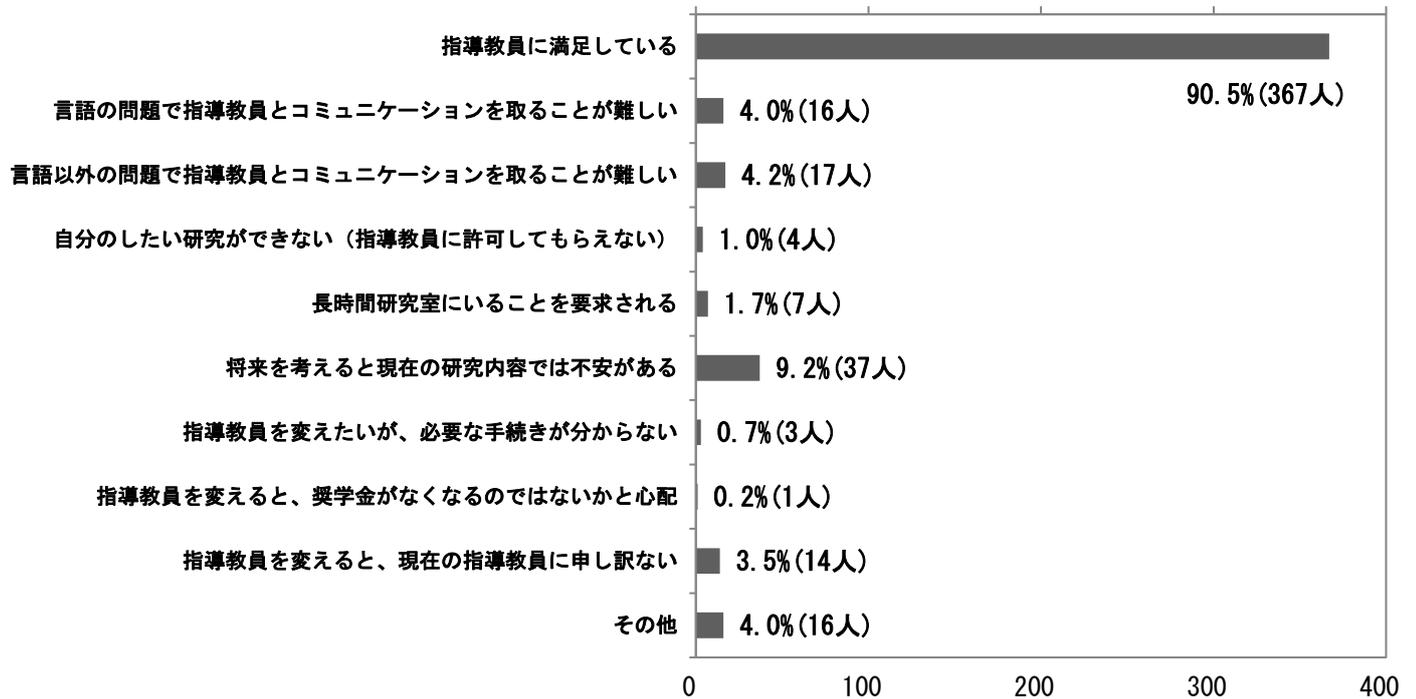


【学籍別】

		決まっていなかった		受け入れ願いと書類		(研究計画)複数回の相談をした。		(研究室)複数回の相談をした。		その他		計 n(人)
		n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	
全体		31	7.7	109	27.0	229	56.8	87	21.6	70	17.4	403
学籍	博前	23	11.9	63	32.5	101	52.1	35	18.0	27	13.9	194
	博後	2	2.2	14	15.6	70	77.8	32	35.6	13	14.4	90
	聴講	4	4.9	20	24.7	37	45.7	11	13.6	22	27.2	81
	研究生	2	5.6	12	33.3	21	58.3	9	25.0	6	16.7	36
	学部生	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	100.0	2

3.4 指導教員との関係において、次のうちどれがあなたにあてはまりますか？（複数回答可）

【回答者全体】



		指導教員に満足している。		言語以外の問題で指導教員とコミュニケーションを取ることが難しい。		自分のしたい研究ができない（指導教員に許可してもらえない）。		将来を考えると現在の研究内容では不安がある		計 n(人)
		n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	
全体		363	90.5	17	4.2	4	1.0	37	9.2%	401
学籍	博士前期	173	89.2	13	6.7	4	2.1	20	10.3%	194
	博士後期	86	95.6	3	3.3	0	0.0	7	7.8%	90
	特別聴講	70	87.5	1	1.3	0	0.0	8	10.0%	80
	研究生	34	97.1	0	0.0	0	0.0	2	5.7%	35
	学部生	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0%	2
専門	文系	177	90.8	9	4.6	3	1.5	26	13.3%	195
	理系	132	89.2	6	4.1	1	0.7	9	6.1%	148
	その他	54	93.1	2	3.4	0	0.0	2	3.4%	58

90.5%もの学生が「満足している」と回答しており、圧倒的な結果となった。

設問 3.3 において「決まっていなかったので、相談していない」と回答した割合は博士課程前期学生が最も高く、11.9%。(全体 7.7%) 設問 3.4 において、「自分のしたい研究ができない」と回答した割合も博士課程前期学生が最も高い結果 (2.1%) となった。(全体 1.0%)

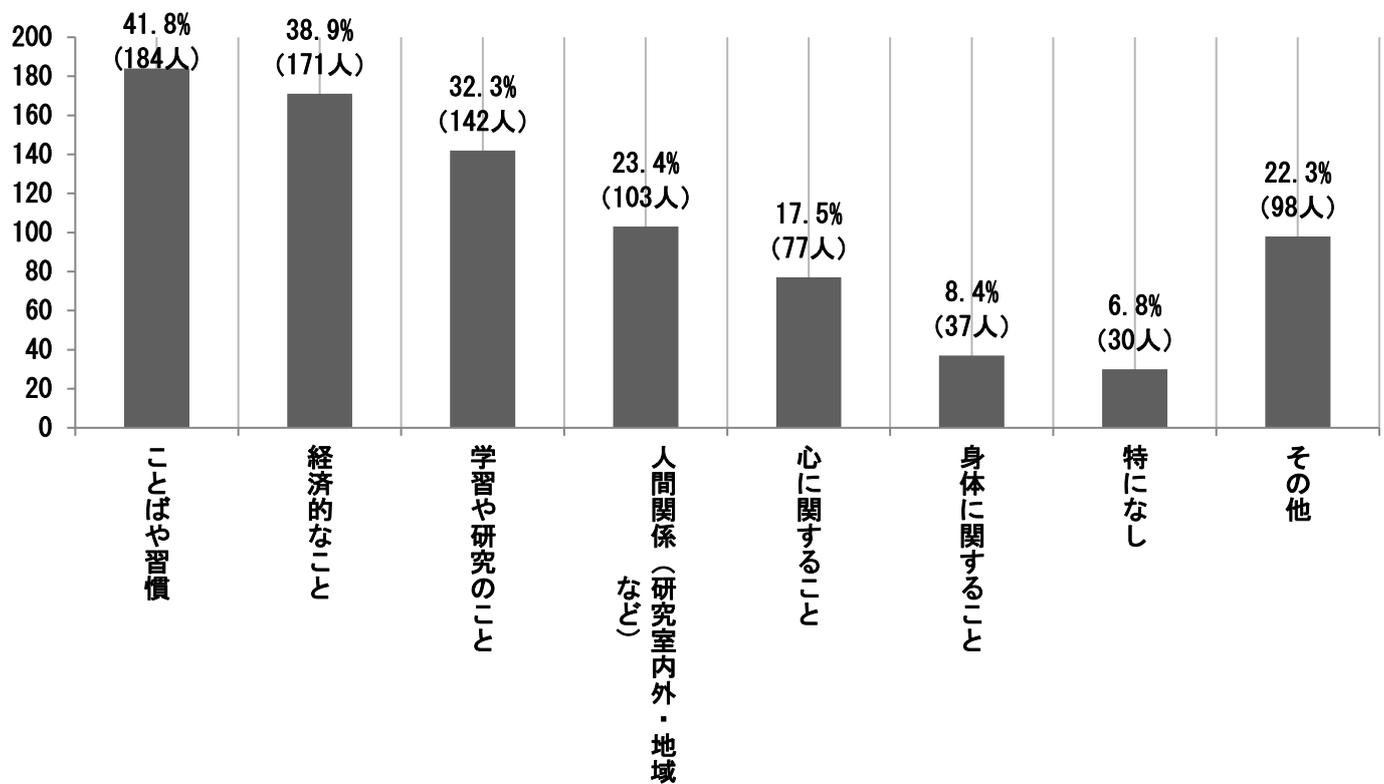
また、「言語以外の問題で指導教員とコミュニケーションを取ることが難しい」と回答した割合についても同様に博士課程前期学生が最も高い結果 (6.7%) となった。(全体 4.2%)

反面、77.8%が「研究計画について事前に複数回の相談を行った」と回答した博士課程後期学生については、「自分のしたい研究ができない」と回答した学生はおらず、事前に受入予定指導教員と研究内容に関する相談を詳細に行うことが受入後のミスマッチを防ぐために有効であると思われる、指導教員に満足しているかどうか (博士課程前期 : 89.2%, 博士課程後期 : 95.6%) についても差異が見られる結果となった。

「将来を考えると現在の研究内容では不安がある」と回答した学生は、文系 13.3%、理系が 6.1% となり、文系学生が将来に不安を感じている割合が高いことが伺える。

4. 学生生活支援について

4.1 学生生活の中で困っていることがありますか？（複数回答可）



【経済的なこと】

		n(人)	%
全体		171	38.9%
学籍	博士課程前期	92	45.1%
	博士課程後期	39	43.3%
	特別聴講学生	23	22.5%
	研究生	13	35.1%
	学部生	3	50.0%
私費・国費	私費	143	48.1%
	国費	17	27.4%
	政府派遣	4	17.4%
	その他奨学金	7	12.1%

学籍別に見ると、全体と比較した際に、大学院学生が経済的に困っていると回答した割合が高く、特別聴講学生において低い結果となった。正規生として在籍している年数が長いケースでは、経済面で困難に直面する学生が多くなることが予想される。私費・国費の別では、特に奨学金の支給を受けていない私費留学生が「経済的なことで困っている」と回答した割合が多くなった。

【ことばや慣習】

「ことばや慣習について困っている」と回答した割合が、国費留学生（48.4%）、政府派遣留学生（56.5%）において高くなっている。（全体：41%）出身国数の上位5か国は以下の通り。

		ことばや慣習	
		n(人)	%
全体		184	41.8%
私費・国費	私費	117	39.4%
	国費	30	48.4%
	政府派遣	13	56.5%
	その他奨学金	24	41.4%

	国費	政府派遣
1	インドネシア	インドネシア
2	韓国	中国
3	中国	韓国
4	バングラデシュ	マレーシア
5	タイ	ベトナム・エジプト

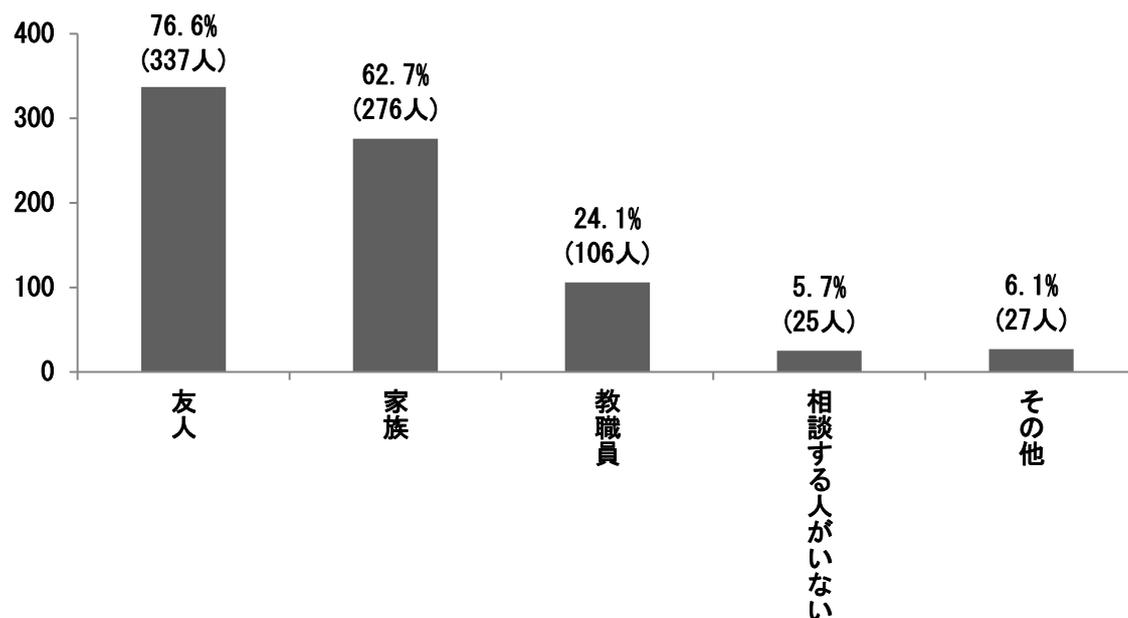
【学習や研究】

特に外国人研究生において、「学習や研究のことで困っている」と回答した割合が高く（全体32.3%に対し40.5%）、博士課程後期学生において低くなった。（21.1%）

		学習や研究のこと	
		n(人)	%
全体		142	32.3%
学籍	博士課程前期	70	34.3%
	博士課程後期	19	21.1%
	特別聴講学生	34	33.3%
	研究生	15	40.5%
	学部生	4	66.7%

4.2 困ったことがあるときにはおもに誰に相談しますか？（複数回答可）

【回答者全体】



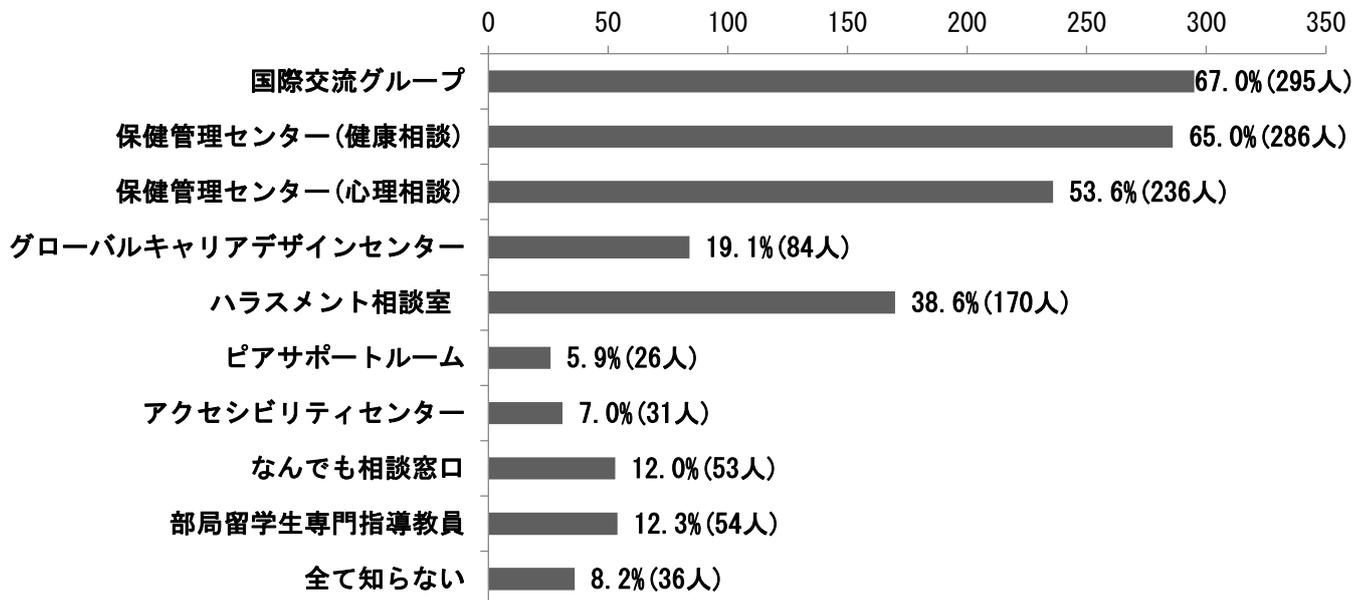
困ったときの相談相手として、全体の 76.6%が「友人」と回答しており、家族（62.7%）、教職員（24.1%）と続く。

「友人」と答えた割合は国費・政府派遣留学生で全体よりも低く（58.1%、69.6%）、懇意にする友人の存在が比較的少ないと言え、設問 4.1 において「ことばや慣習への適応に困っている」と回答した割合と相関関係がある可能性がある。

		友人		家族		教職員		相談する人がいない		その他		計 n(人)
		n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	n(人)	%	
全体		337	76.6	276	62.7	106	24.1	25	5.7	27	6.1	440
私費 ・ 国費	私費	236	79.5	183	61.6	60	20.2	17	5.7	20	6.7	297
	国費	36	58.1	44	71.0	13	21.0	6	9.7	3	4.8	62
	政府派遣	16	69.6	17	73.9	11	47.8	0	0.0	1	4.3	23
	その他奨学金	49	84.5	32	55.2	22	37.9	2	3.4	3	5.2	58

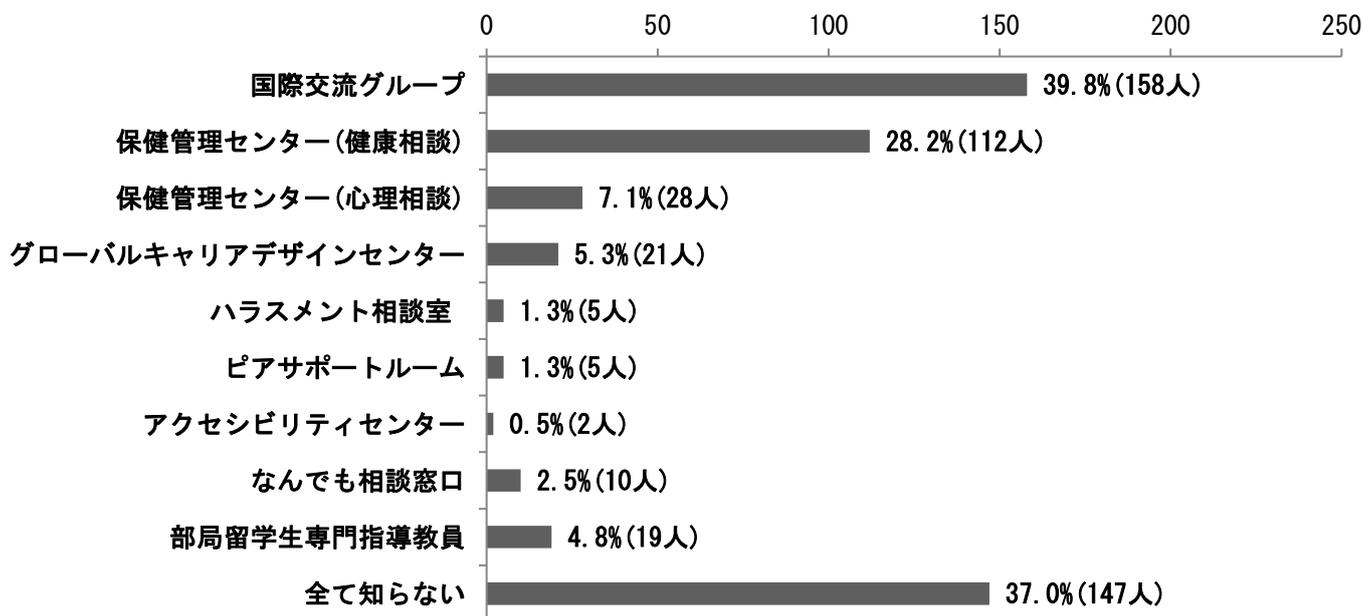
4.3 学生生活支援のための次の相談窓口があることを知っていますか？（複数回答可）

【回答者全体】



4.4 学生生活支援のための 次の相談窓口を利用したことがありますか？（複数回答可）

【回答者全体】



属性間で比較した結果、各窓口の認知度・実際の利用の有無について差異は見られなかった。設問 4.4 で得られた回答数（利用度）を設問 4.3 で得られた回答数（認知度）で除することで得られた数値が大きいほど、A「学生にとって身近である（=知っているし、利用したこともある）」という見方ができ、反面その数値が小さい場合は B「認知はされているが利用した人が少ない」ことが読み取れる。B の場合は、

- ①【良い面】知っているが使ったことはない（=必要に迫られる出来事が起こっていない）
- ②【悪い面】知っているが相談するための心理面または手続き面のハードルが高く、利用に至っていない（可能性）

の双方が考えられる。

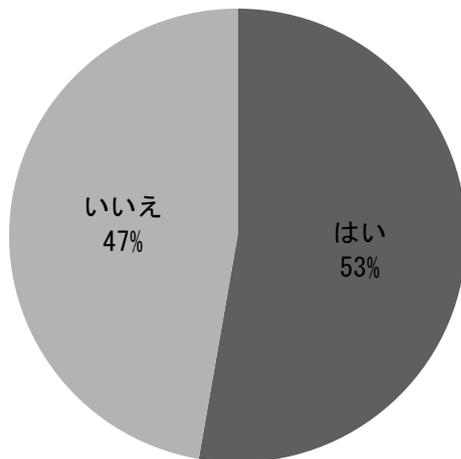
以下に、A・Bについて列記する。（Aについては数値の大きい順，Bについては数値の小さい順に記載）

	A（知っているし、利用したこともある）		B（知っているが、利用したことはない）	
1	国際交流グループ	53.5	ハラスメント相談室	2.9
2	保健管理センター（健康相談）	39.1	アクセシビリティセンター	6.4
3	留学生専門指導教員	35.1	保健管理センター（心理相談）	11.8
4	グローバルキャリアデザインセンター	25	なんでも相談窓口	18.8
5	なんでも相談窓口	18.8	グローバルキャリアデザインセンター	25

取り扱う問題が心理面や人間関係と密接になるに従い、数字が小さくなる（Bに近づく）傾向が見られる。

4.5 あなたは日本の企業への就職を希望していますか？（有効回答 440）

【回答者全体】



回答者全体のうち、およそ半数が日本企業への就職を希望している。

【私費・国費】

		はい		いいえ		計
		n(人)	%	n(人)	%	n(人)
全体		232	52.7%	208	47.3%	440
私費・ 国費	私費	179	60.3%	118	39.7%	297
	国費	29	46.8%	33	53.2%	62
	政府派遣	5	21.7%	18	78.3%	23
	その他奨学金	19	32.8%	39	67.2%	58

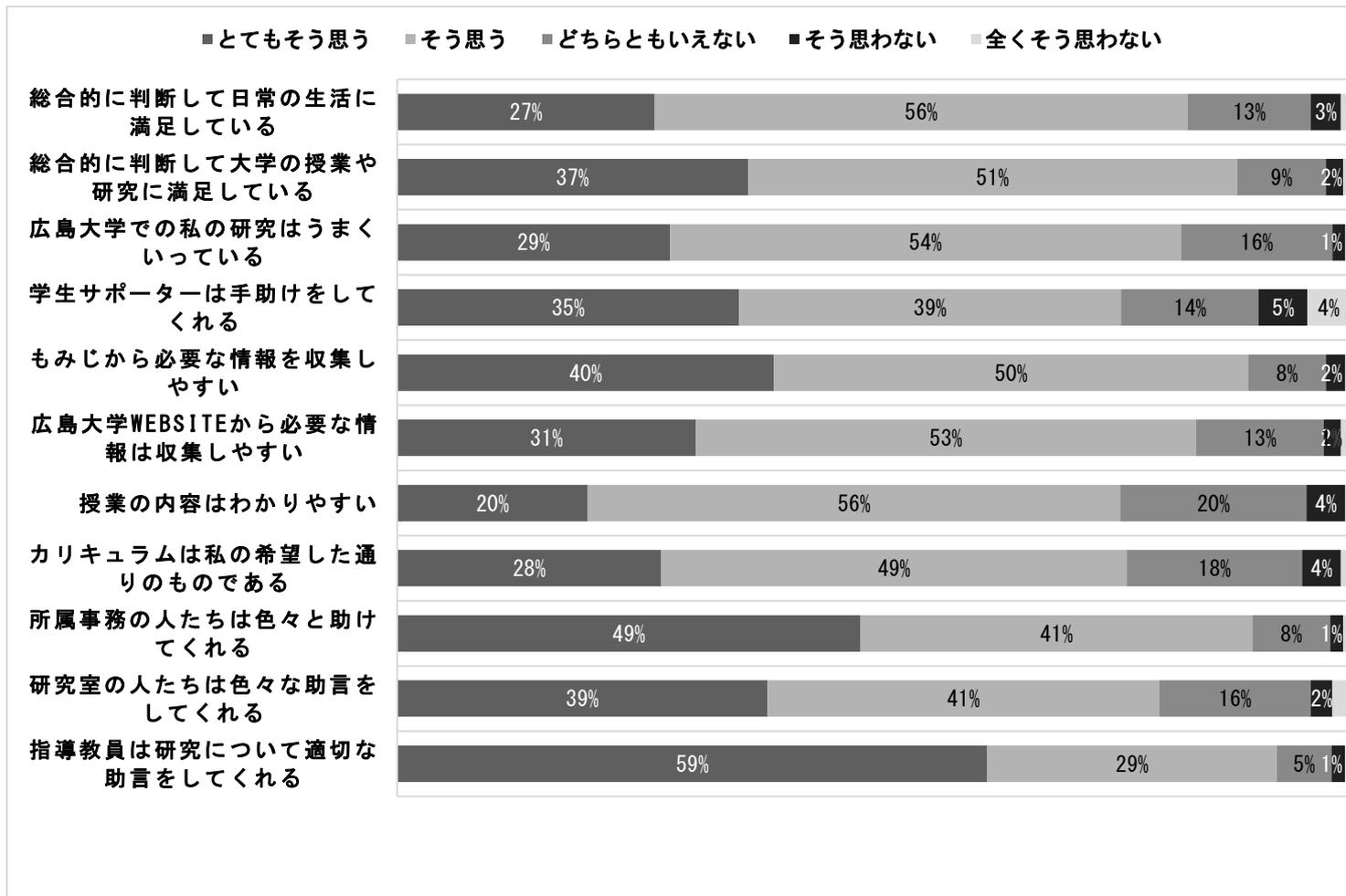
私費・国費の別で比較したところ、帰国後の所属等に条件が付いている可能性がある留学生については、日本企業へ就職を希望する割合は低かった。

【設問 4.4 との比較】

全体の約半数の留学生が「日本企業への就職を希望する」と回答しているのに対し、設問 4.4 で「グローバルキャリアデザインセンターを利用したことがある」と回答した留学生は全体の 5.3%に留まっている。

5. 広島大学における学習，生活に関する満足度

広島大学に関する以下の内容について，あてはまる回答の数字を選択してください。



留学生満足度の平均値経年比較

	2009	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	
											前年度との比較 (0.05ポイント以上の変化)
指導教員は，研究について適切な助言をしてくれる	4.47	4.39	4.46	4.40	4.43	4.34	4.36	4.52	4.47	4.52	↑
研究室の人たちは，いろいろな助言をしてくれる	4.10	3.98	4.07	4.00	4.08	4.11	4.02	4.12	4.05	4.13	↑
所属事務の人たちは，いろいろと助けてくれる	4.20	4.19	4.27	4.21	4.25	4.32	4.34	4.35	4.31	4.36	↑
カリキュラムは，私の希望した通りのものである	3.90	3.69	3.80	3.73	3.75	3.89	3.96	4.03	4.01	3.98	変化なし
授業やゼミの内容はわかりやすい	3.71	3.61	3.66	3.76	3.76	3.88	3.84	3.93	3.99	3.91	↓
広島大学Websiteから必要な情報は収集しやすい	3.82	3.79	3.82	3.83	3.86	3.99	3.99	4.03	4.06	4.12	↑
もみじ							4.12	4.17	4.20	4.26	↑
学生サポーターは手助けをしてくれる	3.93	3.79	3.86	3.88	3.86	4.08	4.02	4.00	3.99	3.98	変化なし
広島大学での私の研究はうまくいっている	3.94	3.88	3.91	3.93	3.87	3.92	3.96	4.04	4.00	4.09	↑
総合的に判断して，大学の授業や研究に満足している	4.13	4.00	4.13	4.11	4.12	4.10	4.16	4.14	4.17	4.22	↑
総合的に判断して，日常生活に満足している	3.93	3.86	4.02	4.03	4.03	4.02	4.02	3.99	3.98	4.05	↑

6. 自由記述（質問項目「なにか意見がありましたら、書いてください。」）

37名が回答。内容を以下にまとめる。

- ・ Great environment for study.
- ・ 学食のメニューに和食以外のものが欲しい。
- ・ 宿舎について、サンスクエアなどは留学生向けに空きを増やしてほしい。
- ・ 教員によるハラスメント（アカデミックハラスメントやパワーハラスメント）に関する対策を練ってほしい。セミナーだけでは足りない。また、ハラスメント相談室に相談することによって、状況がよくなるかどうかについて判断しにくい。
- ・ 日本語で論文を書く際の、ライティングセンター等での日本語チェックサービスを強化してほしい。
- ・ 研究科独自で、留学生向けの日本語クラスが開講されていると良い。
- ・（中国人の学部生）英語の授業を日本語で受けるのに苦労した。
- ・ 大学が提供する、翻訳や研究に関わるアルバイトを増やしてほしい。
- ・ アルバイトを減らして、研究に集中できるように経済的なサポートが欲しい。